

ガイアナ内政、経済、外交月間報告（2022年1月）

在トリニダード・トバゴ日本国大使館

1. 概況

- 新型コロナウイルス発生数は増加傾向にあり、収束の兆しは見えていない。1月末時点でのワクチン完全接種率は約40%。
- 政府が発表した2022年予算では、歳出が前年比38%増の大型予算。22年成長見込みを47.5%と予測。
- エクソンモービル社がガイアナ沖合で新たな2カ所の油田を発見。また、ガスからエネルギーを生産するプロジェクトは2024年の完成を目標とし、ガイアナの電力費用を50%削減する。
- アリ大統領がボルソナーロ伯大統領のスリナム訪問時に、ブラジル、スリナムとエネルギー回廊開発のための覚書に署名。
- アフォバカ水量発電所は中国中鉄が落札し、22年に工事着手、27年に完了予定。
- 平山大使は日本が支援するカリコム本部太陽光による再生可能エネルギー導入工事の引渡し式に出席。式典にはアリ大統領、フィリップス首相、バーネットカリコム事務局長等が参加。

2. 内政

(1) 新型コロナウイルス

- （全般）1月の新型コロナウイルス発生数及び死者数はそれぞれ約20,100人及び約110人。1月末時点でのワクチン完全接種率は約40%。オミクロン株については、これまで発生は報告されていない。
- （11日付報道）アンソニー保健大臣が、月内にCOVAXを通じて25,000回分のジョンソン&ジョンソンが到着すると述べた。
- （13日付グレナダ紙）カリブ公衆衛生局（CARPHA）が、地域で初となるコロナ報告書を作成した。
- （15日付報道）政府はスペイン政府から、ジョンソン・アンド・ジョンソン18,800回分の寄贈を受けた。
- （28日付報道）米軍は保健省に保険関連活動支援のため車両3台を寄贈した。
- （28日付カリコム発表）カリブ公衆衛生局（CARPHA）と仏開発庁は、CARPHA加盟国における保健体制強化のための協力に署名した。

(2) その他の内政

- （5日付報道）21年の重大犯罪の減少率は、前年比21.9%減と過去10年間で最大の減少率となった。
- （12日及び19日付報道）ナンドラル司法長官は、20年の総選挙に対する異議申し立てを高裁が却下後、野党APNU+AF Cが控訴した件について、同裁判所が控訴を審理し決定する管轄権を有するという決定に異議を唱えるため、カリブ司法裁判所に訴える予定。
- （24日付報道）野党連合APNUグレンジャー代表（前外相）が辞任し、1ヶ月前に野党PNC/R党首に就任したオーブレイ・ノートン氏が同連合代表に就任。
- （25日付報道）今年発表されたトランスペアレンシー・インターナショナルの汚職認識指数（CPI）レポート2021において、ガイアナは39ポイントで昨年よりも2ポイント下がり、180カ国中87位となった。

3. 経済

- （5日付政府発表）バラット天然資源大臣が、エクソンモービル社がガイアナ沖合のスタブロック海区で新たな2カ所の油田を発見した、この発見を歓迎すると述べた。
- （18日付報道）ガイアナ政府は、同国とスリナムを結ぶコレンティーン川橋梁の建設に向けた事業化調査および予備設計に関して、4社より計6件の入札を受けたと発表。
- （19日付報道）21年洪水で被害を受けたガイアナ及びスリナムの小規模農家に対するFAOの支援が開始。予算は13.6万米ドル
- （24日付報道）アリ大統領は24～26日に開催されたカリブ持続可能エネルギー会議において、2050年までに温室効果ガス排出ネットゼロを目標とすることがカリブ地域にとって重要と述べた。
- （24日付報道）バラット天然資源大臣は、ガスからエネルギーを生産するプロジェクトは2024年の完成を目標とした総額9億米ドルの事業で、ガイアナの電力費用を50%削減すると述べた。
- （25日付報道）アリ大統領がボルソナーロ伯大統領のスリナム訪問時に、ブラジル、スリナムとエネルギー回廊開発のための覚書に署名したと述べた。
- （26日）シン財務大臣が2022年予算を発表。歳出5,300億ガイアナドルの前年比38%増の大型予算で、天然資源基金より1,266億ドルを引き出し。22年成長見込みを47.5%と予測。
- （26日付報道）シン財務大臣は、22年に石油生産の増加により9.58億米ドルが天然資源基金に入金されると述べた。
- （31日付報道）シン財務大臣は、アフォバカ水量発電所は中国中鉄が落札し、

22年に工事着手、27年に完了を予定していると述べたと報道。

4. 外交

- （10日付政府発表）アリ大統領がボルソナーロ・ブラジル大統領と電話会談を行い、月内に行われる会談の内容について話し合った。アリ大統領は、ガイアナはブラジルと強固で戦略的な関係を築きたいと述べた。
- （11日付政府発表）アリ大統領は、当地訪問中のスコットランド英連邦事務局長（ドミニカ出身）と会談。会談にはフィリップス首相、シン大統領府上級大臣（財務担当）、トッド外務大臣他也参加した。
- （19日付報道）米国沿岸警備隊とガイアナ民間防衛委員会（CDC）は、米国国務省のエネルギー・鉱物資源ガバナンスプログラム（EMGP）の支援を受け、CDCの海上での油流出事故防止と対応能力向上を目的とした6か月間の共同活動を開始。
- （20日付政府発表）アリ大統領は、ボルソナーロ・ブラジル大統領のスリナム訪問の機会にあわせて同国を訪問し、同大統領及びサントキ・スリナム大統領との3か国首脳会談に参加。21日に予定されていたボルソナーロ大統領のガイアナ訪問は、同大統領の母親の逝去のため中止となった。

5. カリコムの動き

- （3日付カリコム発表）カリコムは1日に発生したアンリ・ハイチ大統領の暗殺未遂事件に関し、深く憂慮し、治安に対して懸念する。
- （7日トリニダード・トバゴ外務省発表）ラテンアメリカ・カリブ諸国共同体（CELAC）第22回会議が開催され、コロナ禍後の経済復興、コロナ対応、地域医療能力構築、災害リスク対応・管理能力の強化、食料安全保障、科学技術・イノベーション協力、デジタル変革、アジェンダ2030持続的開発目標（SDGs）に関連した環境協力などの地域の重要問題が議論された。
- 11日、平山大使は日本が支援するカリコム本部太陽光による再生可能エネルギー導入工事の終了に伴う引渡し式に出席し、本件の完成をみることで光栄であると述べた。式典には、アリ大統領、フィリップス首相、バーネットカリコム事務局長、殿川JICAセントルシア事務所長等が参加した。
- （28日付カリコム発表）コロンビアの balankeyja で第二回カリコム・コロンビア閣僚会合が開催され、地域協力、コロナ禍対策、経済・貿易・投資、気候変動、治安防衛協力等について議論された。